

# 2月定例会での勝川議員の一般質問(その2)

**持続可能なエネルギー政策の展開で原発の再稼働の再稼働に**

市としてエネルギー

政策の計画は

◆勝川 バイオマス発電・小水力発電・太陽光発電などの持続可能なエネルギー政策の展開は掛川の将来を牽引する鍵になると考えるがどうか。

◇市長 市として、再生可能エネルギーに取り組んでいる。風力・太陽光・小水力・バイオマス、いろいろな取り組みをさらにしっかりと推進していきたい。

◆勝川 原発は新設がなければ、いずれなくなるといいうエネルギー。世界は持続可能なエネルギーを本流として大きく動いている。市のエネルギー政策は。

◇市長 エネルギー資源確認埋蔵量はウランが1000年程度、石油・天然ガスにいたっては50年程度。今後原発や火力発電に頼っていくことが厳しいことは明白だ。掛川は日照と風況に恵まれた土地であり、以前浜岡原発に頼ってきた市内の電力使用量の11%相当を平成37年までに風力や太陽光発電の再生可能エネルギーで賄える計画を立てて、現段階で実現可能と判断をしている。

原発の再稼働に

対峙する考えは

◆勝川 実行不能な広域避難計画の説明が始まるが、危険な再稼働に対峙すべきでは。

◇市長 浜岡原発において万全な安全対策が完了し、将来にわたり安心安全が確保され、国の原子力規制委員会と中部電力が市民に対ししっかりと説明し、市民の理解が得られなければ再稼働はできないという考えに変わりはない。3・11の後、10キロ圏内の千浜の農業者の方から、「我々百姓は田んぼと畑を持ってよそに行くわけにはいかん」と言われた。地元の皆さん了解をしっかりとらなければ再稼働というのはあり得ないなどの思いだ。



伊達方にある大井川用水の流れをそのまま利用した小水力発電所。約280件分の電気が安定的に地域に配電されています。



牧之原市にあるバイオマス発電所。食物リサイクル法に基づいて受け入れた県内企業からの食品廃棄物を発酵させメタンガスを作り出して800世帯以上の発電をしています。

政務活動費を以下のように使用しました。詳細は勝川議員の個人のHP(sihoko.com)に掲載。市議会のHPに領収書がアップされる予定です。

## 2017年度政務活動費収支報告書

会派名 日本共産党

1 収入 275,000 円(2017年5月1日分~2018年3月31日分)

25,000円×11ヶ月

政務活動費通帳利息

1 円

2 支出

科目	金額	備考
調査研究費	12,031	視察代(長野県・福島県)
研修費	55,160	議員研修会参加費(静岡市・東京)
広報費	72,082	掛川市議会日本共産党だより作成(3回)等
広聴費	0	
要請陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	5,916	会派室用プリンター購入費等
資料購入費	41,341	書籍代(27冊)
人件費	0	
事務所費	14,985	会派室インターネット使用料
合計	201,515	

3 残額 73,486 円

※残金は全額市に返還しました

## 29年度補正予算(一般会計及び国民健康保険・介護保険の特別会計)

## 30年度予算(一般会計及び国民健康保険・後期高齢者保険・介護保険の特別会計)介護保険条例一部改正に反対しました

- ・企業誘致や公共事業の予算を削り、子育てがしやすい街の実現のため、教育費や子育て支援に予算を！ 待機児童対策への緊急施策を！
- ・松ヶ岡の整備は、ふるさと納税の市長裁量をそのままつぎ込むのではなく、まずは市民の納得がいく計画の策定を！
- ・中小企業支援のための住宅リフォーム制度の拡充
- ・河川管理、公園の整備、街路樹や歩道、通学路整備などのインフラ・生活に密着した予算の充実を！
- ・国の福祉切り捨てに対峙して、単独補助や、一般会計補填などで市民の命と健康、福祉と生活を守る防波堤に！

## 予算の中の前進面 市の姿勢を評価します

- ・制度改変で危惧されていた国保税増税をせずに据え置き
- ・介護保険料の引き下げ(基準世帯で年額3000円の引き下げ)
- ・第一小、西山口小の学童保育所増設
- ・乳幼児医療費の無料化(10月より)
- ・発達相談支援センター「のびる~む」の開所
- ・「掛川市協働による中小企業振興基本条例」制定 など



第一小児童保育所のひまわりクラブの3ヶ所目が開所

希望の丘 ふくしあ内に開所した発達相談支援センター「のびる~む」

